

佐賀市 9 歴史探訪

みずがえじょうあと 水ヶ江城跡

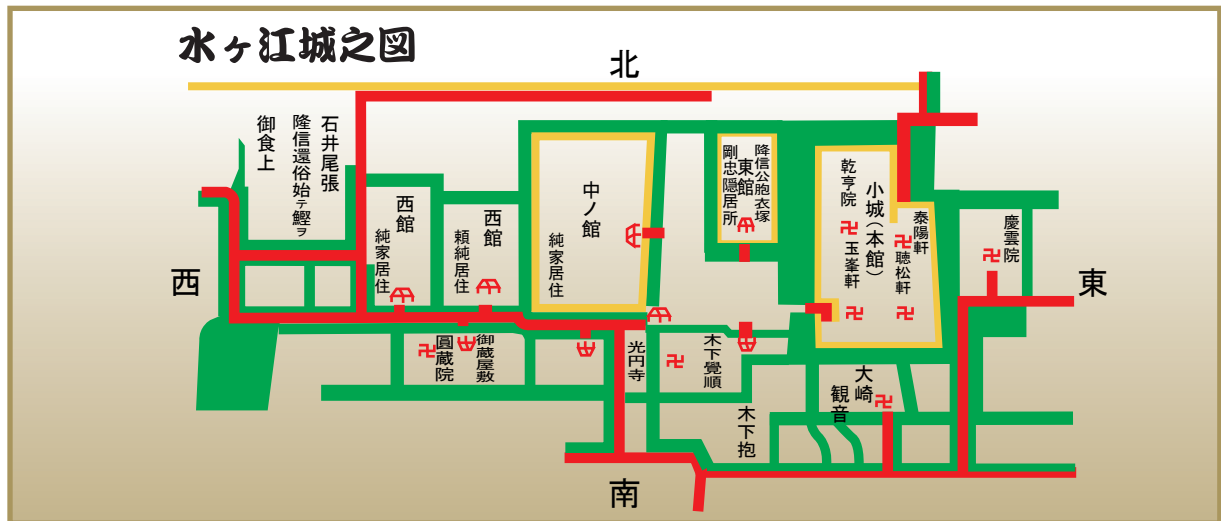
佐賀城ができる前(戦国時代)のことです。その頃佐賀は、戦乱が続き、その中から龍造寺氏が勢力を拡大していきました。龍造寺氏の城は佐賀西高等学校付近を中心とした「村中城」と、赤松小学校周辺の「水ヶ江城」がありました。龍造寺隆信はこの二城を拠点として「五州二島の太守」と呼ばれる戦国大名に成長していきました。

村中城は、隆信没後、鍋島直茂・勝茂父子により整備拡張されて佐賀城ができあがるわけですが、水ヶ江城はどのような城だったのでしょうか。隆信の頃の絵図は残っていませんが、江戸時代になってから制作された絵図(下図参考)によると、赤松小学校付近に「西の館」、「中の館」、龍造寺隆信誕生地である中の館児童公園付近に「東館」、その東に「本館」が配置されていて、それぞれの館の周りには堀が巡らされていました。

水ヶ江城の正確な範囲はわかっていませんが、記録によると約30haの広さがあったということです。江戸時代になると水ヶ江城は整理されて、龍造寺氏系統の家臣団の屋敷地となりました。



▲龍造寺隆信誕生地(中の館児童公園)



一口メモ

龍造寺氏の家紋

太陽が光を放つ様子をかたどったもので、一般に「十二日足(じゅうにひあし)」といいます。龍造寺氏に縁のある龍泰寺や龍造寺八幡宮など寺院の瓦などに見ることができますので、参詣の際、ちょっと屋根を見上げてみませんか。



龍造寺家
(十二日足)



▲水ヶ江城があったと思われる周辺